

サハリン残留邦人の発話に見られるサハリン朝鮮語の特徴

渡邊香織

キーワード：サハリン朝鮮語、朝鮮語変種、サハリン残留邦人、サハリン朝鮮人（韓人）、言語接触

1. はじめに

本稿の目的は、朝鮮語¹の諸方言、日本語、ロシア語との接触で形成されたサハリン朝鮮語の言語的特徴を記述することである。本稿では、サハリン南部が日本領「樺太」だった時代に朝鮮半島から樺太に渡った人々とその子孫、戦後朝鮮人²コミュニティに包摂された残留邦人とその子孫の使う朝鮮語を「サハリン朝鮮語³」とする。

1.1 言語接触

言語接触について、ワインライヒ（1976）は2つもしくはそれ以上の言語が、同一人物により交互に使用されるとするならば、その2つ以上の言語は「接触下にある」と言えるとして、言語を使用する個人そのものが接触の「場」とであると定義した。

ロング（2013）は異なる民族が接触するとそれぞれの言語は相互になんらかの影響を受け、そのことを「言語接触」と呼んだ。

中国朝鮮語の研究をした宮下（2007: 49）は、「異なった言語を話す個人あるいは集団が、直接的、間接的かを問わず何らかの形で接触することにより、2つまたはそれ以上の言語が併用され、その結

¹ 本調査に協力してくれたコンサルタントたちが自分たちの使う言語を「조선말/조선글（朝鮮語）」と呼び、現在の大韓民国で使用されている言語を「한국어/한국말（韓国語）」と呼んで区別していることから、本稿でもそれに従う。本来「글」は文字や文章を意味する単語だが、コンサルタントたちが「○○語」という時に「○○글」と言っていることから、本稿では「조선글」を「朝鮮語」、「러시아글」を「ロシア語」と訳した。

² 本稿では樺太時代に朝鮮半島から渡った人々とその子孫を「朝鮮人」とする。本調査に協力してくれたコンサルタントをはじめ、本稿では取り上げなかったが筆者が韓国での調査において出会ったサハリンからの永住帰国者たちが「조선 사람/조선인（朝鮮人）」という呼称を使用していることから、それに従った。現在のサハリンと韓国では「사할린 한인（サハリン韓人）」という呼称もよく用いられるが、本稿では「朝鮮人」に統一する。

³ 金東昭（2003）ではサハリン朝鮮語を7大方言圏のひとつとしている（他に南韓語、北韓語、中国朝鮮語、中央アジア高麗語、ロサンゼルス韓国語、大阪韓国語）。

果、それに関与した言語に何らかの影響が生じるような状況、および、言語的、社会的な諸現象」を「言語接触」と定義した。

以上のように、ワインライヒは言語接触を個人レベルでの使用によって生じるものとし、ロングは社会的な接触が言語に与える影響に焦点を当てている。宮下は接触の形態が多様であることを示し、社会的・言語的に影響があるとしている。このように、言語接触は個人レベルで生じる現象なのか、集団や社会レベルで生じる現象なのか、研究者により定義が異なる現象である。本稿では宮下の定義を援用し、言語接触とは個人レベルと社会レベルの双方で、複数の言語が関わり合い、影響を受ける現象とし、多数エスニック社会⁴であった樺太と戦後「サハリン」となった当地で、朝鮮語の諸方言、日本語、ロシア語の影響を受けた朝鮮語がどのようなものかを明らかにする。

1.2 サハリンにおける朝鮮人コミュニティの歴史と言語接触の影響

朝鮮半島から樺太への朝鮮人の大規模移住は1937年に始まり、1941年末の時点で樺太の総人口約40万6千人のうち、朝鮮人は総人口の約4%を占める約1万9千人だった(樺太庁1943)。多くは労働者として樺太に渡った朝鮮半島南部(現在の韓国)の出身者たちで(大沼1992)、한국학중앙연구원(韓国学中央研究院)의 한국민족문화대백과사전(韓国民族文化大百科辞典)ではそのほとんどが慶尚道と全羅道の出身地だったとされている。小倉(1944)の朝鮮語方言区画に則ると、慶尚道は慶尚道方言、全羅道は全羅道方言が話される地域である。よって樺太の朝鮮人コミュニティでは、主に慶尚道方言と全羅道方言が使われていたと考えられる⁵。樺太住民の大多数は日本人であり、炭鉱などの労働現場では日本人と朝鮮人労働者が一緒に働き、学校では日本人と朝鮮人の子弟は同じ学校で学んでいたことから、日本語との接触も日常的だったはずである。

戦後、樺太に住んでいた日本人は本土へ引き揚げたが、朝鮮人は置き去りとなり、当地には朝鮮学校が設立され、朝鮮語による教育が行われるようになった。この際、教師として中央アジアから高麗人⁶が派遣されたが、高麗人教師は難解な朝鮮語の方言⁷やロシア語を話したという(朴亨柱1991)。

⁴ 中山(2018)は日本領サハリン南部をこう呼んでいる。

⁵ 労働者の親とともに樺太へ渡った、もしくは樺太で生まれた朝鮮人子弟は日本人と同じ学校で学び、当時は朝鮮人家庭でも日本語が使用されていたという証言もある(中山2012)。筆者が韓国でサハリンからの永住帰国者を対象にインタビュー調査をした際は、「外では日本語を使っても家庭では朝鮮語を使うよう躰けられた」と話す者もあり、家庭により使用言語にバラつきがあったと考えられる。なお、韓国での調査で得られたデータについては別稿で明らかにする予定である。

⁶ 19世紀中盤以降に朝鮮半島からロシア沿海州に移り住み、その後1937年のスターリンの政策によって中央アジアに強制移住させられた人々のことである(玄ほか2016)。

⁷ 高麗人の言語は「高麗語」と呼ばれ、概ね咸鏡北道方言を受け継いだものである(権在一2018)。

このように戦後「樺太」から「サハリン」となった当地に高麗人が移り住んでくることで、高麗人の高麗語⁷と元からサハリンにいた朝鮮人との言語接触もあったと考えられる。また、朝鮮学校では北朝鮮から派遣された派遣労務者の子弟も学び、北朝鮮の言葉を学んだという(召영순ほか 2018)⁸。そのため朝鮮学校は朝鮮語の様々な方言が接触する場であったと言える。また、サハリンには朝鮮人と結婚していた日本人女性など残留を余儀なくされた日本人も千数百人おり(大沼 1992)、残留邦人は朝鮮人コミュニティに包摂され、子弟は朝鮮学校に通った。そのため残留邦人には朝鮮語が堪能な者が多く、本稿のコンサルタントたちも、戦後サハリンの朝鮮学校で教育を受けた残留邦人たちである。

しかし、戦後のサハリンでは次第に朝鮮人たちの間でロシア社会で生きていくためにロシア語を学ぶべきだという意識が強まり、ソ連当局の指示もあって1964年に朝鮮学校は閉鎖される(임엘비라 2010)。その後現在に至るまでサハリンには朝鮮学校は設立されておらず、朝鮮学校廃止以降に教育を受けた世代はほぼロシア語しか話さないモノリンガルである。若い世代がロシア語しか解さないため、朝鮮学校で教育を受けた世代も子どもや孫との会話ではロシア語を使用する⁹。

以上述べたように、サハリンの朝鮮人の言語は朝鮮語の諸方言、日本語、ロシア語との接触を経て形成されたものであると見ることができる。次節以降で、その具体的な特徴を明らかにする。

2. 先行研究

サハリン朝鮮語、残留邦人の言語に関する先行研究を概観する。

Ramsey(1993)はサハリンで朝鮮人数名にインタビュー調査を行い、サハリン朝鮮語の特徴について記述した論文である。同論文は、年配者は慶尚道方言を話し、若い世代の朝鮮語には北朝鮮の方言の特徴が現れたことを明らかにした。しかしこの調査はパイロット調査であるためコンサルタントの数も少なく、コンサルタントの中にサハリン在住の中国朝鮮族も含まれているなど、コンサルタントの選定にやや問題がある。

金美貞(2008)はサハリンの朝鮮人の日本語での発話に現れる朝鮮語の影響について論じている。同論文は、語中無声音の有声音化や、韓国語の語彙の混用など、音声・表現上に韓国語の干渉と思われる特徴があると明らかにした。同論文は日本語について分析したものであり、コンサルタントの中に残留邦人は含まれていない。

⁸ 教師にも北朝鮮出身者がいたという(召영순ほか 2018、J3の証言)

⁹ 朴亨柱(1991:4)では「在サハリン朝鮮人の現在の言語生活は、社会、職場ではロシア語、一般の家庭内では朝鮮語とロシア語である。二世、三世の場合、ソ連人化されており、ロシア語を母語と認識しているといっても過言ではないだろう。」と述べられている。本調査でも、コンサルタントたちは家族(特に子ども、孫)とはロシア語で話している様子が確認できた。

真田（2009）はサハリンの朝鮮人2世の日本語の特徴を分析した論文である。同論文では、2世の日本語には日本の東北方言、北海道方言の特徴が現れると述べている。同論文のコンサルタントは1名のみで、やはり残留邦人は含まれていない。

真田・金（2014）もサハリンの朝鮮人2世の日本語を分析したものである。同論文は、2世が日本語で発話する際にも朝鮮語を混ぜて発話し、特に朝鮮語の副詞を多く混ぜて話すことや、日本語からの干渉によって生じた、日本語としては不自然な表現が見られることなどを指摘している。

Fajst&Matsumoto(2020)は、インターネットでアンケートをとり、サハリンで使用されている韓国語と日本語の借用語を調査したものである。同論文では韓国語からの借用語は食、日用品などに関する名詞が多く、朝鮮南部の方言要素が確認できることなどが報告されている。同論文は借用語だけを調査したもので、語法などに関する言及はない。また無記名のアンケート調査であるため、信憑性にやや問題がある。

吉田・松本（2022）は、在日コリアンとサハリン朝鮮人のコイネー形成を調査したものである。同論文は2世から4世まで幅広い年代に調査を行っており、コンサルタントの中には朝鮮語を話す残留邦人も含まれている。同論文では、4世の発話にも朝鮮語の方言形や借用語、日本語の単語が残っていたことが述べられている。ただし同論文は音節核のバリエーションのみに焦点を当てたものであり、語法や語彙などについての言及はない。

以上概観したように、サハリン朝鮮人や残留邦人の言語に関する先行研究は少なく、特にサハリン朝鮮語について、音韻、語法、語彙など多面的な分析を行ったものは Ramsey(1993)を除いてなく、残留邦人の朝鮮語に関する研究は吉田・松本（2022）だけである。そこで筆者は日本と韓国でサハリン朝鮮人、残留邦人に朝鮮語でインタビュー調査を行い、その朝鮮語の特徴について音韻、語法、語彙の面から分析しようと考えた。本稿は筆者が行った調査のうち、日本で行った残留邦人への調査の結果を報告するものである。

3.調査概要

調査は2024年1月から2月にかけて、インタビュー形式でコンサルタントの自宅で行われた。コンサルタントたちは日本に永住帰国した残留邦人で、すべて女性である。コンサルタントたちには「朝鮮語でお話してください。」と依頼し、なるべく朝鮮語で語ってもらったが、自然と日本語やロシア語に切り替わる際は特に注意せずそのまま話してもらった。筆者が朝鮮語でサハリンでの暮らしや日本での最近の暮らしについて質問し、コンサルタントの許可をとって録音した。録音時間は1人当たり2時間～5時間と長時間に及んだが、本稿ではすべて会話開始から30分までを文字化し、分析を行った。コンサルタントの情報は以下の表の通りである。

表1. コンサルタントの情報

| 話者 | J1 | J2 | J3 | J4 |
|-----------------|------------------------------|------------------|---------------------------|---------------------------|
| 性別 | 女 | 女 | 女 | 女 |
| 生年 | 1942 年 | ? | 1944 年 | 1943 年 |
| 出身地 | 長野 | ? | 樺太 | 樺太 |
| 両親出身地 | 実父：長野 義父：全羅南道 母：長野 | 父：北海道 母：大阪 | 実父：北海道 義父：忠清南道 母：静岡 | 父：不明 義父：慶尚道(?) 母：新潟 |
| 配偶者出身地 | 青森 | 慶尚北道 | 東京 | 樺太 |
| 学歴 | 朝鮮学校 3 年ま で ¹⁰ | 朝鮮学校 7 年ま で | 朝鮮学校 8 年ま で | 朝鮮学校 (10~16 歳) |
| 日本帰国年度 | 2011 年 | 2005 年 | 2000 年 | 2009 年 |
| 現在の居住地 | 北海道 | 東京 | 北海道 | 北海道 |
| 現在の家族との 使用言語 | ロシア語 | ロシア語、朝鮮 語、日本語 | ロシア語、朝鮮 語、日本語 | ロシア語、日本語 |
| 朝鮮語の習得時 期 | 幼少期 (家庭内) | 朝鮮学校入学時 | 朝鮮学校入学時 | 朝鮮学校入学時 (10 歳) |

J1 は 1942 年に長野で日本人の両親の元に生まれ、1944 年に伯母 (母の姉) と樺太へ渡る。J1 はインタビューの中で伯母のことを어머니 (お母さん) と呼んでいた。伯母は 1945 年に全羅南道出身の朝鮮人男性と結婚するが、J1 が朝鮮学校 3 年の時にその男性が事故死し、伯母は別の朝鮮人男性 (出身地は不明) と再婚した。伯母は生活しながら朝鮮語を身につけ、小さい頃は家庭で朝鮮語を使っていたという。義父が事故死して生活が苦しくなったことから J1 も朝鮮学校を辞め、家の仕事を手伝っていた。23 歳の時に青森出身の残留邦人の男性と結婚し、夫と姑と一緒に暮らした。姑は自分の青森弁を「汚い」と言って日本語を話すのを嫌がり、家庭ではロシア語を使って生活していた。夫は林務の仕事をしており、職場にいる朝鮮人たちの話す朝鮮語を理解していたが、自分が話すのは恥ずかしくて朝鮮語を喋ろうとはしなかった。家庭では主に朝鮮料理を作って食べていたが、夫と姑が辛いものが苦手だったため、辛さを控えめにした朝鮮料理を作っていたという。日本に帰国後、現在はあまり朝鮮料理は作らないというが、J1 の家には韓国から取り寄せたキムチ冷蔵庫がある。J1 は息

¹⁰ 朝鮮学校は 7 年制のものが各市町村に設置されており、一部の都市に 10 年制の上級学校 (中学校) が設置されていた (朴亨柱 1991)。

子と娘を設けたが、子どもたちはロシア語しか分からない。J1 は 2011 年に孫娘と一緒に永住帰国したが、孫は数年前にサハリンに戻り、今は 2023 年にサハリンから来た娘と娘婿が同じ団地の別の部屋で暮らしている。娘婿は両親が朝鮮人だが、ロシア語しか分からない。

J2 は両親ともに日本人であるが、朝鮮学校に通った。家庭では日本語を使用していたが、外では日本語を使わないように躰けられていた。朝鮮語は朝鮮学校に入学してから習得したが、本人は慶尚北道出身の夫と結婚してからのほうが朝鮮語が上達したと話す。義理の両親と朝鮮語で会話しなければならなかったためである。義理の両親とは朝鮮語で会話し、自分の子どもたちとはロシア語で会話していたという。J2 はサハリンで若い頃英語教師をしており、現在は英語を使う機会がないため忘れてしまったというが、それでも聞き取りは今でもできる。朝鮮語とロシア語の勉強も好きで得意だったが、「朝鮮人やロシア人には勝てない」と思い、英語を勉強することにした。J2 は 2005 年に夫と永住帰国し、現在は東京に住んでいる。夫とは朝鮮語、ロシア語、日本語を混ぜて会話するが、悪口などを言う時は朝鮮語を使う。

J3 は実の両親は日本人だが、終戦時父親が日本の内地におり、そのまま生き別れとなってしまった。母はサハリンで朝鮮人男性と再婚し、J3 はその男性に育てられた。朝鮮学校に入るまで母親とは日本語で会話していたが、朝鮮学校に入ってから朝鮮語を使うようになった。朝鮮学校は 1 クラスに生徒が 25～30 人ほどおり、一学年に 3 クラスあった。J3 のクラスには J3 以外に二人日本人がいた。教師はサハリンにいた朝鮮人、北朝鮮人、高麗人がいた。朝鮮語が流暢でなく、日本人である J3 は「일본 계집 (일본は日本のこと、계집は女性に対する蔑称)」と教師に悪口を言われることもあった。朝鮮学校では週に 1 度ロシア語の授業もあったが、J3 はロシア語は苦手で、「朝鮮人に負けない朝鮮語」の習得が目標だったため、ロシア語や英語の勉強は後回しにし、朝鮮語の勉強に力を注いだ。その結果 4～5 年生の頃には朝鮮語が「ペラペラ」になり、近所の人に「口のきけない子かと思っていたのに、今は雀のようにぺちゃくちゃ話す」と言われるほど上達した。朝鮮語も習得し、家では朝鮮式の礼儀作法を教え込まれていたため、朝鮮人の夫と結婚した際は姑に「とても喜ばれた」という。J3 の夫は東京で生まれた朝鮮人である。夫の父親が朝鮮半島から東京に働きに来ていた際に、日本人女性との間にできた子どもが J3 の夫である。しかしその女性との結婚は叶わず、父親は息子を連れて樺太に渡り、そこで朝鮮人女性と結婚した。J3 の夫はその女性に育てられたという。J3 は夫とともに 2005 年に日本に永住帰国し、現在も夫と暮らしている。同じ市内に娘も暮らしている。帰国して間もない頃は夫と朝鮮語とロシア語で会話していたが、今では日本語も多く使うようになった。娘とは主にロシア語で会話しているが、娘が日本語を勉強してからは日本語も使うようになった。先述したように J2 は悪口は朝鮮語を使うと話していたが、J3 は悪い言葉は学校で習わなかったため朝鮮語の悪口はよく分からず、悪口などを言う時はロシア語を使うと話す。

J4 は幼少期に父親が他界し、父親についてはよく知らないが、母親から母親と 30 歳近く年の離れた朝鮮人だったと聞いている。父親が他界したあと、母親はその男性の遠い親戚だった朝鮮人男性と結婚した。J4 は義父はおそらく慶尚道出身だと思うと話す、義父もすぐに事故死したため、詳しいことは一切分からないという。義父の他界により一家の生活は困窮し、J4 は学校に行くことができず、7 歳の時に近所の朝鮮人家庭で住み込みで働くことになった。10 歳の時にようやく学校に通えるようになり、朝鮮学校で朝鮮語を学んだ。J4 が住み込みで働いた朝鮮人家庭では日本語を使用していたため、J4 は朝鮮学校入学時に全く朝鮮語ができず、教師に「반쪽말이 (日本人と朝鮮人のミックスの人や在日朝鮮人に対する蔑称)」と言われるなどいじめられた。J4 は朝鮮語の習得に苦勞し、朝鮮語で会話はできるが、今でも読むことは苦手だという。朝鮮学校に入学した当時ロシア語は「ペラペラ」で、今でもロシア語は会話、読み書き、すべて問題なく行える。J4 は 16 歳まで朝鮮学校に通い、卒業後ほどなくして朝鮮人の夫と結婚するが、8 年ほどで離婚し、また朝鮮人男性と再婚した。再婚相手は樺太生まれだが、高麗人家系である。J4 は 2009 年にその夫ともに永住帰国し、現在は北海道で暮らしている。同じ団地の別の部屋に姉も暮らしている。家族とは主にロシア語で会話している。

3. 分析

コンサルタントたちの発話から、音韻、語法、語彙の面で特徴的な箇所を抽出して分析を行った。抽出する際は①朝鮮語の諸方言の特徴が出ているもの、②日本語の影響と思われるもの、③ロシア語の影響と思われるもの、④その他、という観点から分類したが、分類しきれないものや朝鮮語の方言の特徴とも日本語の影響とも考えられるものなどもあったため、それらは筆者が一番可能性が高いと思うカテゴリーに分類した。なお、文字化の際は宇佐美ほか (2007) の枠組みを援用し、現在の韓国の正書法に従って表記したが、発話者の発音に忠実に表記したため、一部ハングルの表記が正書法と異なる場合がある。また、特徴的だと思われる部分に下線を引き、括弧内には現在の韓国で標準形とされる形を併記した。

3.1 音韻

3.1.1 慶尚道方言¹¹

3.1.1.1 二重母音の単母音化

慶尚道方言では二重母音が単母音で発音されるが、J2 と J4 にその特徴が見られた。

- (1) 잡서요 (→잡쉬요), 잡서 (→잡쉬) 봐요. (J2)
(召し上がってください、召し上がってみてください。)
- (2) 양님 (→양넙) 찾고 맵게 하는 거 좋아하고. (J2)

¹¹ 方言の区画は小倉 (1944) に従った。

(ヤンニョムを求めて、辛くするの好きで。)

- (3) 그때는 무라 (→뫼라) 할까, 南と北なかったからね。(J4)
(その時はなんていうか、南と北なかったからね。)

3.1.1.2 母音の前舌化

趙 (2007) によると、慶尚道方言では母音/ɒ, ɔ/が前舌化するとどちらも/ɥ/となり、/ɔ/が前舌化した場合も/ɥ/となる。母音の前舌化はコンサルタント全員に現れた。

- (1) 애기 다 멕이고 (→먹이고) 이렇게 했어요. (J1)
(子どもみんな食べさせてこうやりました。)
- (2) 우리 뫼 (→뫼) 년이요, 이십 년 이상 말 안 하니까. (J2)
(私たち何年ですか、二十年以上言ってないから。)
- (3) 우리 어머니는 일본식으로 매느리 (→머누리) 봐도 한국에능요, 한국 사람들은 매느리 (→머누리) 보고 매느리 (→머누리) 바브 얻어먹잖아요, 아침. (J3)
(うちのお母さんは日本式に、嫁見ても韓国にはですね、韓国人たちは嫁に嫁ご飯作ってもらって食べるじゃないですか、朝。)
- (4) 그니까 우리 어머니한테 장개(→장가) 갓졌지요. (J4)
(だからうちのお母さんと結婚したんでしょう。)

3.1.1.3 口蓋音化

慶尚道方言では/ɸ, ɸ, ɸ/の直後に母音/ɪ/あるいは半母音/j/が来る時、/ɸ, ɸ, ɸ/がそれぞれ/ㅍ, ㅌ, ㅊ/で発音される (趙 2007)。本調査では、「김치 (標準形: 김치)」という単語でのみ口蓋音化が見られた。

- (1) 돼지고기, 고기 고런 거 사 와서 김치 (→김치) 볶으고 그렇게 해 가지고 먹고 살았어요. (J1)
(豚肉、肉とかそういうものを買ってきてキムチを炒めてそうやって食べて暮らしました。)
- (2) 우리 집에서 김치 (→김치) 도 집에서 하요. (J2)
(うちでキムチも家で作ります。)

「김치」以外には口蓋音化が見られなかったことから、「김치」という単語のみ口蓋音化した形が定着し、口蓋音化の規則自体はサハリン朝鮮語に保持されなかった可能性がある。

3.1.1.4 ㄴ脱落

慶尚道方言では/ㄴ/の後ろに母音/ㅣ/あるいは半母音/j/が来ると、ㄴが脱落する(한국방언학회 1985)。J3を除く3名に、ㄴの脱落が見られた。

- (1) 김치 해도 고춧가루 안 넣고(→넣고). (J1)
(キムチ作っても唐辛子の粉入れないで。)
- (2) 그래서 김치 냉장고 없으니까 그냥 이런 데 여(→넣어) 놓고 하니까 많이 못해 봤잖아요. (J2)
(それでキムチ冷蔵庫がないから、ただこういうところに入れておいて作ったから、たくさんはできなかったじゃないですか。)
- (3) 그래도 좀 조선학교에서는 말 마이(→많이) 안 했어요. (J2)
(それでもちょっと、朝鮮学校ではたくさん喋りませんでした。)
- (4) 옛날에 아닙니까(→아닙니까)? (J4)
(昔じゃありませんか?)

3.1.2 平壤文化語

3.1.2.1 頭音法則

韓国の標準語では、漢字語の語頭の/r/は直後に/ㅣ/あるいは/y/が来た場合/r/が脱落するが、北朝鮮では語頭の/r/がそのまま維持される。J2の発話の中から、「리유(理由)」という単語のみ語頭の/r/が現れた。

- (1) 학생 아파서 몬 오키나 무슨 리유(→이유) 로 몬 오몬 남겨 가지고 꼬크 공부 시켰어요. (J2)
(学生が具合が悪くて来られなかったり、何かの理由で来られなかったら、残して必ず勉強させました。)

ただし、この単語は日本語の「理由(りゆう)」と発音が類似していることから、単純に日本語と混同しただけとも考えられる。

3.1.3 日本語の影響と見られるもの

3.1.3.1 閉音節の開音節化

閉音節が開音節化される例、つまり音節末子音に母音をつけて発音する例がJ1,J2,J3で見られた。これは日本人韓国語学習者にも見られる現象で(이화진ほか 2021)、閉音節がほぼない日本語の影響だと思われる。同じく日本語の影響を受けた在日朝鮮語でも閉音節が開音節化される場合がある(渡邊 2018)。

- (1) 아드르느(→아들은) 사십두 살에 자동차에 부닥치고…… 죽었어요. (J1)

(息子は32歳で自動車にぶつかって...死にました。)

- (2) 인자 조선학교에서 배운 거 옛날이라서 뭘 배웠는가 그래도 그르느(→글은) 읽지요.
(J2)
(さて朝鮮学校で習ったの昔だから何を習ったのか、それでも文は読むでしょう。)
- (3) 한국어 안 쓰고 えーと아이들이 한구크어(→한국어) 잘 몰랐잖아요. (J3)
(韓国語使わないでえーと子どもたちが韓国語よく知らなかったじゃないですか。)

3.1.4 その他

朝鮮語の諸方言の特徴にも該当せず、日本語やロシア語の影響とも考えられないいくつかの例を示す。これらの例が現れた要因は今後検討することとしたい。

3.1.4.1 母音の後舌化

- (1) 응. 고상(→고생) 마이 했다요. (J1)
(うん。苦勞をたくさんしたそうです。)
- (2) 널 죽어라고 내 빠리고 갔는데 だから 어머니가 없었으니까 아이들도 어머니 아버지 없으므 고상(→고생)이잖아요. (J3)
(私を、死ぬと、私捨てて行ったのに、だからお母さんがいなかったから、子どもたちもお母さんお父さんいないと苦勞じゃないですか。)
- (3) 도이츠투 전장(→전쟁) 후에 だから 그때 우리 어머니가 그 사람한테 시집 갔어요. (J4)
(ドイツと戦争後だから、その時うちのお母さんがその人のところに嫁に行ったんです。)

J1とJ3は고생을고상と発音し、J4は전쟁を전장と発音している。いずれも/ㅈ/が/ㅊ/で実現している。

3.1.4.2 子音同化

- (1) 私がね、えーと、저능요 (→저는요)，손길이 바쁘니까요. (J3)
(私がね、えーと、私はですね、手が忙しいからです。)
- (2) 그 말 들었거든요. (→들었거든요). (J4)
(その言葉を聞いたんですよ。)

これは J3 と J4 の発話に数回出現したが、「은/는+요」という形のみでの出現だったため、この組み合わせでのみ子音同化が起こるのかもしれない。今後、他にも子音同化が起こる場合があるか引き続き検討したい。

3.1.4.3 ㄷ脱落

- (1) 가이비(→가리비). (J1)
(ホタテ。)

複合語や派生語ではㄷの後ろに/ㄴ,ㄷ,ㄹ,ㅂ/が来るとㄷが脱落する場合があるが(李翊燮ほか 2015)、この例に当てはまらないㄷ脱落が見られた。しかしこの現象が現れたのは J1 のみで、単語も「가이비(標準形:가리비)」だけであることから、単純な言い間違いの可能性もある。

3.1.4.4 ㅎの非弱音化

日本で出版されている韓国語教材を見ると、/ㅎ/は/ㄴ,ㄷ,ㄹ/の後ろに来ると弱音化し、連音すると記載されていることが多い(金炫勇 2018)。しかし、本調査のコンサルタントたちは全員が終声の初声化を起こさずに(連音せずに)、/ㅎ/をはっきりと発音している。

- (1) 선생님 말하는 거 알아들었어요. (J1)
(先生が言うこと聞き取れました。)
- (2) 읽을 만하니까 괜찮지요. (J2)
(読む価値があるから大丈夫でしょう。)
- (3) ○○ (人名) 은 한국어로 말하 할 때도 있고 그렇지 않으므 러시아語…今 치끔은 보통 일본어예요. (J3)
(○○は韓国語で言うときもあるし、そうでなかったらロシア語…今、今は普通日本語です。)
- (4) あれ、やっぱり王子会社のそういうところあったから、やっぱりその紙作ったりして、だから산관에서 일하다 하든 좋겠는지 모르지만은. (J4)
(あれ、やっぱり王子会社のそういうところあったから、やっぱりその紙作ったりして、だから山で働いたと言えればいいのか分からないけど。)

次の 3.1.3.5 非連音化で述べるように、/ㅎ/以外の音でも連音が起こっていない例があった。

実は韓国の標準発音法には/ㅎ/の弱音化の記載がなく、/ㄴ,ㄷ,ㄹ/の後ろの/ㅎ/は発音通り(連音しない)となっている。一方、北朝鮮の『조선말 규범집(朝鮮語規範集)』ではㅎの弱音化の記載があり、日本で出版されている韓国語教材の多くは初声/ㅎ/の発音に関しては北朝鮮の発音規則に則った記載が多い(金炫勇 2018)。標準発音法では認められていないにも関わらず、現在の韓国では/ㅎ/を弱音

化して発音する傾向があり、コンサルタントたちのㄹの非弱音化の要因は通時的なものなのか、あるいは方言など共時的なものであることも考えられる。今後更に検討が必要である。

また、/ㄹ/は終声の位置で後ろに母音が来る場合発音されないが(국립국어원 표준 발음법)、母音の前の終声/ㄹ/を発音している例が1例のみあった。

- (1) 그러니까 조흔(→좋은 発音は[조은]) 거만 골라 가지고 뭐라 하든….(J4)
(だから良いものだけ選んで、なんて言えば…。)

これは J4 の発話に1度だけ現れた例であるため、規則性のある現象とは断定できないが、今後韓国のコンサルタント(サハリンからの永住帰国者たち)との比較を通じて検証したい。

3.1.4.5 非連音化

先述の初声の/ㄹ/以外にも、本来であれば直前の終声と連音化が起こる組み合わせで、連音されない場合があった。

- (1) 그리고 독일어(→[도기러]を[도길어]と発音している) 공부해도 안 된다고.(J3)
(それからドイツ語の勉強してもだめだって。)

また以下に示すように、J3 は二重終声の片方が母音の前で落ちることもあり、連音化が苦手なのかもしれない。

- (1) 간데¹² 그거 재혼도 안 하고 그냥 늑을 때(→늑을 때 [늑글 때]を[늑글 때]と発音している)까지 같이 딸하고 아버지하고 할머니하고 같이 살았어요.(J3)
(行ったんだけど、それ再婚もしないで、ただ老いるまで一緒に娘とお父さんとお祖母さんと一緒に暮らしました。)

これは J3 の発話にのみ現れた例であるため、言い間違いなどの可能性も捨てきれず、今後韓国のコンサルタントとの比較を通じて検証したい。

3.2 語法

3.2.1 慶尚道方言

3.2.1.1 終結語尾

3.2.1.1.1 -요/서요

¹² 「갔는데」の誤りだと思われるため、「行ったんだけど」と訳した。

丁寧体の文末形式である해요体を現在形で用いる際、母音語幹は「第Ⅰ語基¹³+요」、子音語幹は「第Ⅰ語基+서요」の形で現れた。以下に示すように、特に하다用言の場合はJ3以外全員が「하요」という形を使った。하다用言と母音語幹用言の例は以下の通りである。

- (1) 그렇지 않으면 러시아말 하요(→해요). (J1)
(そうでなかったらロシア語を話します。)
- (2) 많이 일 안 하요(→해요) 선생들. (J2)
(たくさん仕事しませんが先生たち。)
- (3)ほとんど友達はロシアの友達だったから 그래 배웠는가 하요(→해요). (J4)
(ほとんど友達はロシアの友達だったから、そう習ったのかと思います。)
- (4) 지금은ここさ来て дочка들이 일본말 하나도 모르요(→몰라요). (J1)
(今はここに来て娘たちが日本語ひとつも分かりません。)
- (5) 왜냐하면 인터넷 보면 बी츠가 그렇게 몸에 좋다고 많이 나오요(→나와요). (J2)
(なぜならインターネットを見たら、बी츠がそれほど体に良いとたくさん出ます。)
- (6) 자주 보지만 눈물 나오요(→나와요). (J4)
(よく見るけど涙が出ます。)

子音語幹の用例は以下の通りである。

- (1) 말이 좀 더럽서요(→더러워요). 어머니말. (J1)
(言葉がちょっと汚いです。お母さんの言葉。)
- (2) 다 알아들서요(→알아들었어요). (J1)
(全部聞き取れました。)
- (3) 그러서요, 그러서요(→그래요, 그래요). (J2)
(そうです、そうです。)
- (4) 왜냐하면 папа는 집에서 만든 김치 уже 뭐라든 좋서요(→좋아요/좋겠어요)? (J2)
(なぜならお父さんは家で作ったキムチ、もうなんて言えばいいですか?)

この-요/서요は、慶尚道方言の하오体の-오/소に影響されたものだと考えられる。慶尚道方言では하오体の-오が-요で現れることがあり(한국방언학회 1985, 최명옥 2019)、コンサルタントたちはおそらくそれを해요体として使用したのではないか。また、-서요は하오体の-소に요を接続しようとし

¹³ 用言の語幹を表す際は、菅野(1981)を元に語基式を用いる。第Ⅰ語基は基本形から-다を除いた形、第Ⅱ語基は母音語幹の場合第Ⅰ語基と同様、子音語幹の場合第Ⅰ語基に-오をつけた形、第Ⅲ語基は語幹の最後の母音がㅏ, ㅓなら第Ⅰ語基+아, ㅓ, ㅓ以外なら第Ⅰ語基+어となる。

て、発音が声に変化したものではないかと考えられる。筆者がこのように考える理由は、J3¹⁴を除くコンサルタントたちは해요体に馴染みがない可能性が高いからである。해요体は元々中部地方¹⁵の女性や子どもが使う文末形式であったが、20世紀後半から使用が拡散され、합니다体が使われるような格式的な場面でも使用されるようになった(최정숙 2003)。そのため朝鮮半島南部の出身者たちが多かったサハリンでは、コンサルタントたちが해요体を見聞きする機会は少なかったと推測できる。また、J3の証言によると、サハリンでは朝鮮語を使う際に大人の前では합니다体を、友達同士では해체(반말)を使い、해요体を使うことはあまりなかったという。インタビュー当時、筆者はコンサルタントたちが해요体に不慣れだという点に思いが至らず、個人的に使い慣れた해요体を用いてインタビューを行った。そのためコンサルタントたちは筆者の해요体に合わせようと、上記のような語尾を生成した可能性がある¹⁶。

3.2.1.1.2 第I語基+도、第I語基+ㅁ (過去形)

第III語基+도や、第III語基+ㅁ (過去形) を作る際も第I語基を使用している場合があった。

- (1) 조금했을(→조금했을) 때는 조선말 했어요. (J1)
(小さかった時は朝鮮語を話しました。)
- (2) 그냥 선생님 말 듣고 조선학교라 하도(→해도) 조선말만 안 했잖아요. (J2)
(ただ先生の言葉を聞いて朝鮮学校だと言っても朝鮮語だけ喋ったわけじゃないじゃないですか。)
- (3) 그 사람들 마르는 조금 다랐어요(→달랐어요). (J2)
(その人たちの言葉は少し違いました。)
- (4) 그니까 큰오빠, 여동생, うちの우리 어머니는 술 몬 마셨어요(→마셨어요). (J3)
(だから上の兄、妹、うちのうちのお母さんはお酒が飲めませんでした。)

(1) は本来「조그마하다」もしくは「조그맣다」を使うべきところで、「조그마했을」もしくは「조그맸을」となる。後半の「했어요」は標準形を使っていることから、この例は発音のエラーとも考えるが、J1

¹⁴ J3はコンサルタントの中で唯一「第I語基+요/서요」の使用がなかった。J3は筆者とのインタビューで最初の数分は합니다体を使うことが多かったが、その後徐々に해요体にシフトしていった。J3は韓国ドラマの視聴が趣味で、普段から現代の韓国語を聞いており、他のコンサルタントに比べ해요体に慣れていたと考えられる。

¹⁵ ソウル、京畿道、江原道、黄海道、忠清道が中部地方に当たる。

¹⁶ 맹복실 (2014)によると東京出身の朝鮮学校の生徒の発話にも「第I語基+요」の形が現れるという。その理由について具体的には述べられていないが、朝鮮学校の生徒たちの間では日常で해요体(同論文では{아요/어요/여요}と表記)がほとんど使用されないと述べていることから、やはり해요体に不慣れなことから生成される形ではないかと考えられる。

が「小さい」を「조금하다」だと認識しており、하다用言の活用が咄嗟にできなかったとも考えられる。

(3) はㄹ変則用言であることから変則活用のエラーとも考えられる。(4) は第Ⅲ語基を作る際に語幹に-아や-어をつける用言ではなく、語幹末の母音を-ㅁに変える必要のある用言であるため、活用がやや難しく、一般的な韓国語学習者と同じエラーとも考えられるが、その他に慶尚道方言の可能性もある。慶尚道方言では語幹末がでㅁ終わる用言の第Ⅲ語基が通常のㅁの形にならず、ㅁのまま活用される(최명옥 2019、高木 2019)。

3.2.1.2 連結語尾

3.2.1.2.1 -ㅁ/-ㅁ

仮定を表す連結語尾-(으)면が-(으)ㅁまたは-(으)ㅁという形で現れた。-(으)ㅁは慶尚道方言で使われる形式である(한국방언학회 1985)。-(으)ㅁは J3 の発話にのみ現れた。

- (1) 그렇지 않으ㅁ(→않으면) 러시아말 하요. (J1)
(そうでなければロシア語を話します。)
- (2) 안 배우ㅁ(→배우면) 안 되지요. (J2)
(習わなければだめでしょう。)
- (3) 러시아 その 한구크말만 하ㅁ요(→하면요). (J3)
(ロシアその韓国語だけ話したらですね。)
- (4) 왜가 하ㅁ(→하면) 母さんは 형제간들이 많았어요. (J4)
(なぜかというと母さんは義理兄弟(義理親戚¹⁷)が多かったんです。)

3.2.1.2.2 -ㅁ

引用形を作る「고」は慶尚道では「ㅁ」になる(趙 2007)。

- (1) 러시아말 해라ㅁ(→하라고). (J2)
(ロシア語を話しなさいって。)
- (2) 그렇게ㅁ(→그렇게 하고) 같은 한국 사람이지만 고향에 따라 살았어요. (J3)
(そうやって同じ韓国人だけど故郷ごとに住みました。)

3.2.1.2.3 -기나(キナ)

用言の並列や例示を表す-거나が、慶尚道方言では-기나になる(국립국어원 우리말샘)。

- (1) サラダ하기나(→하거나) 뭐. (J2)

¹⁷ 형제간という単語の意味については 3.3.5 を参照されたい。

(サラダ作ったりとか。)

- (2) 학생 아파서 몬 오키나(→못 오거나) 무슨 리유로 몬 오몬 남겨 가지고 꼬크 공부 시켰어요. (J2)

(學生が具合が悪くて来られなかったり、何かの理由で来られなかったら、残して必ず勉強させました。)

J2 は-기나を激音化させ키나と発音することもあった。慶尚道方言では引用形の-고 하다가-카다として実現するが(趙 2007)、J2 がこの引用形の激音化を過剰一般化させてしまった可能性がある。

3.2.1.2.4 -응께

理由や原因を表す-(으)니까が-응께という形で現れた。-응께は慶尚道方言と全羅道方言で見られる形である(국립국어원 우리말샘)。これは J1 と J2 のみに見られた。また、J1 の発話には-닝께、-닝까나という形も現れた。

- (1) 응. 시어머니 한국에 살고 있응께(→있으니까). (J1)
(うん。姑が韓国に住んでいるから。)
- (2) 그렇게(→그러니까) 한국말 듣기 빨리 이렇게 한국말로 알아들었어요. (J2)
(だから韓国語聞くこと早くこうやって韓国語で聞き取りました。)
- (3) 밖에 나가든 조선 사람도 많응께(→많으니까) 조선 동무끼리…。 (J2)
(外に出たら朝鮮人も多いから朝鮮の友達同士…)
- (4) 그렇게(→그러니까) 아버지 없으닝까나(→없으니까) 남편이 조꼬만서도 조꼬마, 맏 살, 열 네 살인가 그럴 때부터 일 했다요. 林務서. (J1)
(だからお父さんいないから夫が小さいながらも小さ、何歳、10 歳かその時から仕事したそうです。林務で。)
- (5) 어머니는 일본에 살기 싫으닝께(→싫으니까) 사하린에 갔…。 (J1)
(お母さんは日本に住むのが嫌だからサハリンに行っ…)

(4)は-닝까나는慶尚道方言の-닝까に나がついたものだと考えられる。平安北道方言の-니까나という形にも似ているが、平安北道方言の連結語尾は他に出現していないことから、この連結語尾にだけ平安北道方言が出現することは考えにくく、サハリンの朝鮮人の出身地を考えても慶尚道方言から派生した形だと考えるのが妥当であろう。-닝까나의나는、たとえば現在の韓国で-을까という終結語尾に나がついて-을까나という形で実現することがあることと似たような現象ではないかと考えられるが、-을까나의나に関する論考が見当たらないため、ここでは保留としたい。-닝까나의나も-을까나의나も日本語の終助詞「な」の影響も考えられる。(5)は-닝께は-응께と-닝까を混同したもののように思われる。

3.2.1.3 用言の活用

3.2.1.3.1 ㄹ変格用言の正格活用

慶尚道方言ではㄹ変格用言が母音の前でも終声ㄹが脱落せず、正格活用される（한국방언학회 1985）。

- (1) 부끄럽은(→부끄러운) 모양이에요. (J1)
(恥ずかしいようです。)
- (2) あの－시어머니들 맵은(→매운) 거 안 먹었어요. 일본인께. (J1)
(あの－姑たち辛いの食べませんでした。日本人だから。)

3.2.1.3.2 ㄷ変格用言

慶尚道方言ではㄷ変格用言の終声ㄷが、子音の前でもㄷに変化して活用されることがある（한국방언학회 1985）。

- (1) 뭐라 하든... 덮어 놓고 쓸 게 실고 오믄은(→실고 오면은) 석탄가... 쓸데없습니다.
(J4)
(なんと...覆っておいて使うものを載せて来たら石炭が...役に立ちません。)
- (2) 실고(→실고) 간다고 거기서 석탄 무너져 가지고. (J4)
(載せて行くって、そこで石炭が崩れて。)

3.2.1.3.3 ㄷ語幹用言

語幹末母音がㄷで終わる用言の第Ⅲ語基は標準形ではㄷになるが、J1 以外のコンサルタントの発話ではㄷがㅌ、またはㅍで現れた。

- (1) 시집에서 더 많이 배웠어요(→배웠어요). (J2)
(嫁ぎ先でもっとたくさん習いました。)
- (2) 나쁜 말 안 배웠으니까(→배웠으니까). (J3)
(悪い言葉習わなかったから。)
- (3) だから母ちゃん 60 年、60 年もロシアとロシアでこやって暮らしても 한국말도 안 배웠고(→안 배웠고) 러시아語も全然使ってない。 (J4)
(だから母ちゃん 60 年、60 年もロシアとロシアでこうして暮らしても韓国語も習わなかったし、ロシア語も全然使ってない。)
- (4) 얼어간 사람이가 잘 키와(→키워) 컸어요. (J4)

(もらって行った人がよく育ててくれました。)

慶尚道方言では、語幹末母音がㅏで終わる用言の第Ⅲ語基がㅏになる。(1)と(3)は慶尚道方言の特徴に当てはまるが、(2)と(4)はㅏが出現している。ㄱがㅏまたはㅏになった語彙は今回は배우다と키우다のみで、特に배우다はこの現象が現れたコンサルタント3人全員がㅏまたはㅏで発音していた。子音とㅏが結合した用言ではどう変化するかも含め、今後他のコンサルタントの発話と比較し、検証したい。

3.2.1.4 連体形

J2の発話では、連体形語尾が様々な形で現れた。J4の発話では慶尚道方言の連体形語尾が現れた。

- (1) 러시아 사람들도 이자 한국 음식 안 먼(→먹은) 사람도 없어요. (J2)
(ロシア人たちももう韓国料理を食べなかつた人もいません。)
- (2) 왜냐하면 ㅏㅏㅏ는 집에서 만들은(→만든) 김치 ㅏㅏㅏ 뭐라든 좋세요? (J2)
(なぜならお父さんは家で作ったキムチを、もうなんと言えばいいですか?)
- (3) 그때 배와난(→배워 놓은) 거 조금 있었으니까. (J2)
(その時習っておいたもの少しあったから。)
- (4) 사하린서 그냥 같이 학교에서 일헨(→일한) 사람들 러시아 사람 금방요, 많이 이사가요. (J2)
(サハリンでただ一緒に学校で働いた人たち、ロシア人はすぐにですね、たくさん引越します。)
- (5) ㅏㅏㅏ 뱅에다 여 났은(→넣어 놓은) 게 집에 갖다 잡사요. (J2)
(ボルシチの瓶に入れて置いたものが家に持って行って食べてください。)
- (6)それで 얻어 키완(→키운) 모양이에요. 둘이. (J4)
(それでもらって育てたようです。二人。)

(1)は終声ㅏが脱落しており、母音語幹のように活用されている。これはJ2にしか見られず、このように活用する方言はないことから、J2独自の言い方である可能性が高い。(2)のㅏ語幹が脱落せずに連体形になる例、(3)と(4)のように第Ⅲ語基を連体形語尾と接続させるのは慶尚道方言に見られる特徴である(한국방언학회 1985)。(4)は3.2.1.3.3で述べたように語幹末のㅏが第Ⅲ語基でㅏに変わり、そのまま連体形語尾がついた形である。

3.2.1.5 引用形

引用形を作る-고は先述のように慶尚道方言では-고になり、引用形の後ろに用言하다가現れると、-카다という形になる(趙 2007)。以下に示す例では、-카다の後ろに連結語尾-면가-므という形で接続されている。

- (1) 우리 아버지가 뭐라카므(→뭐라고 하면) 뭐라 하믄 좋은가 저거 厳しい人だった。(J2)
(うちのお父さんが何かというと、何と言ったらいいか、あれ、厳しい人だった。)

3.2.1.6 副詞

3.2.1.6.1 문

不可能を表す副詞「못」が慶尚道方言の「문」で現れた。コンサルタント全員がこの副詞を使用していた。

- (1) 여동생 남동생 문(→못) 오죠. (J1)
(妹、弟、来れないでしょう。)
- (2) 한국 음식이 더…러시아도요, 러시아人, 이렇게 러시아 사람들도 한국 음식 먹는 버릇해 노니까요, 김치 없이 문(→못) 있어요. (J2)
(韓国料理がもっと…ロシアもですね、ロシア人、こうやってロシア人たちも韓国料理を食べ慣れたから、キムチなくしてはいられないです。)
- (3) 그니까 큰오빠, 여동생, うちの우리 어머니는 술 문(→못) 마셨어요. (J3)
(だから上のお兄ちゃん、妹、うちのお母さんはお酒飲めませんでした。)
- (4) 오래 문(→못) 살았어요. (J4)
(長く生きられませんでした。)

3.2.1.6.2 안の位置

否定を表す副詞안が複合動詞に使われる場合、語と語の間に안が置かれることがあった。

- (1) いろんな상점 많으니까 들어오는 것도 많이 들어 안 오니까요(→안 들어오니까요). (J3)
(いろんな商店が多いから、入ってくるものもたくさん入ってこないから。)

慶尚道方言では否定を表す않아を안 해、-지 않습니다を안 합니다を使って表す¹⁸(나무위키 동남방언)。また通常「名詞+하다」用言は名詞と하다の間に안を置くが、J3の発話に出てきた用言

¹⁸ 나무위키 동남방언 (<https://namu.wiki/w/동남%20방언/문법#s-6.2>) には例えば「그러지 안 해」「내 말은 듣도 안 합니다」のような用例が載っている。また筆者は韓国のコンサルタント

は하다用言ではないものの、J3 が慶尚道方言の否定の用法や하다用言否定の안の位置を過剰一般化し、上記のような形で実現したのかもしれない。

3.2.1.7 助詞

3.2.1.7.1 -이

慶尚道方言では一部地域で主格助詞の-이가-이가という形で実現する（趙 2007）。

- (1) 그 사람이가(→사람이) やっぱし 51 年度生まれ。(J4)
(その人がやっぱし 51 年度生まれ。)
- (2) 아아 쌤…있고 그 다음에 아들이가(→아들이) уже 어른 돼 가지고 장개 갔고.(J4)
(子ども 3…いて、その次に息子がもう大人になって結婚したし。)

ただし閉音節の単語に不必要な母音を入れるのは日本語を母語とする韓国人学習者に多いエラーでもあり (hana 編集部 2022)、特に J4 は朝鮮語の習得時期も他のコンサルタントに比べ遅いことから、日本語の影響と見るほうが妥当かもしれない。

3.2.2 全羅道方言

3.2.2.1 終結語尾

3.2.2.1.1 -다요

人から聞いた情報をまた別のの人に伝える際の-다고 해요の縮約形-대요が、全羅道方言の-다요 (국립국어원 우리말샘) という形で現れた。

- (1) 아버지는 조선에 ㅇ ㅏ ㅓ, 전라남도 어데…거게서 아버지 살았대요(→살았대요). (J1)
(お父さんは朝鮮にあの、全羅南道どこ…そこでお父さん暮らしたそうです。)
- (2) 딸들한테 주라고 선물 보냈대요(→보냈대요). (J3)
(娘たちにあげてってプレゼント送ったそうです。)

ただし前述したようにコンサルタントたちは해요体の活用に慣れていない可能性が高く、終結語尾で全羅道方言が現れたのは-다요のみだったことから、これは方言形を使用したというよりは何らかの他の要因も考えられる¹⁹。

(サハリンからの永住帰国者) たちが「 좋아하지 않아」を「 좋아 안 해」と言っているのを聞いたことがある。

¹⁹ 최현배(1985)は、-요は感嘆助詞のひとつと見做しており、単語や文章の後ろに自由につけることができるとしている。同書には「나는 간다요。」という用例が載っており、このように-다で文章を終わらせたあとに-요をつけた形がサハリン朝鮮語では伝聞の意味で使用されている可能性もある。

3.2.3 平安道方言

3.2.3.1 終結語尾

3.2.3.1.1 -디요

平安道方言の特徴で唯一現れたのは終結語尾の-디요である。

- (1) 요새는 다 비싸게 됐다 하디요(→하지요)? (J2)

(最近は全部高くなったと言うでしょう?)

本調査では朝鮮半島北部の方言の特徴はあまり出現しなかったが、それでも音韻、語法、語彙で1つ以上は北部方言の特徴が出現しており、サハリンにおいて朝鮮語の諸方言の接触があったことをうかがわせる証拠となっている。

3.2.4 日本語の影響と見られるもの

3.2.4.1 들의用法

複数形接尾辞の들は、日本語の「たち」と異なり近似複数を表すことができないが(鄭惠先 2005)、日本語の「たち」のように使用している例があった。このように朝鮮語では使用範囲が限定的な単語などを、日本語の使用範囲と同じように使う例は Ramsey (1993) でも報告されている。

- (1) 지금은ここさ来て дочка 들이(→딸과 사위가) 일본말 하나도 모르요. (J1)

(今はここに来て娘たちが日本語ひとつも分かりません。)

- (2) あの-시아머니들(→시아머니와 남편) 맵은 거 안 먹었어요. 일본잉께. (J1)

(あの-姑たち辛いの食べませんでした。日本人だから。)

3.2.4.2 -게 되다

日本語の「(形容詞) くなる」は朝鮮語では第Ⅲ語基+지다で表すが、J2 は動詞に使用する-게 되다で表している場合があった。これは日本語を母語とする韓国語学習者にもよく見られるエラーである(印ほか 2023)。

- (1) 요새는 다 비싸게 됐다(→비싸졌다) 하디요? (J2)

(最近は全部高くなったと言うでしょう?)

3.2.4.3 できる수 있다

- (1) 簡単そんなこと、ああこれだったらできるな~이거므 できる수 있구나(→할 수 있구나) 하는 거. (J3)

(簡単そんなこと、ああこれだったらできるな~これならできるな~っていうもの。)

在日朝鮮語では「비비する」や「頑張る하다」のように朝鮮語と日本語を混ぜた動詞を使うことが知られているが(金由美 2005)、本調査ではそのような例は見られなかった。しかし、上記のように「できる」と朝鮮語の可能表現「第Ⅱ語基+ㄷ 수 있다」を混ぜた表現が一度だけ確認できた。これは「できる」の「ㄷ」と「ㄷ 수 있다」の「ㄷ」が似た音を持つために生じたものと思われる。

3.2.5 その他

3.2.5.1 -는가の多用

-는가は自問や推測を表す終結語尾である。コンサルタントたちの発話を見ると、自問ではない疑問文での使用や、疑問を表す-는지、-나など他の語尾の使用の方が適切だと思われる箇所での-는가の使用が見られた。

- (1) 선생님 어데서 왔는가(→왔는지) 모르지만 러시아서 살고 있었어요. (J1)
(先生がどこから来たのか知らないけど、ロシアで暮らしていました。)
- (2) 자기들 마르 하는가(→하나) 싶어서. (J2)
(自分たちのことを言ってるのかと思って。)
- (3) 일본에 와 갖고 일본에서 일본 사람하고 재혼해 갖고 아들 둘이 났다 했는가(→했나)? (J3)
(日本に来て日本で日本人と再婚して息子二人産んだと言ってたかな?)
- (4) はい. 아, 조선 사람이라 하든 되는가(→되는지)...(J4)
(はい。あ、朝鮮人と言ったらいいのか...)

-는가は在日朝鮮語においても出現頻度が高く、自問でない疑問文で使われることが多い(이재호 2016)。權(2021)は在日朝鮮語の特徴である「書き言葉体の話し言葉化」と関連があるものとして、今回のコンサルタントの発話では는가以外に「書き言葉体の話し言葉化」と見られる現象がないため、他の理由が考えられる。-는가の多用の理由については今後の課題としたい。

3.2.5.2 連体形語尾+모양이다

推量を表す際は모양이다が主に使用され、것 같다や-나 보다など他の表現はほぼ使用されなかった。

- (1) 그 조금 아는 모양이요(→아는 것 같아요/아나 봐요). (J1)
(その少し知っているようです。)
- (2)それで 얻어 키완 모양이에요(→키운 것 같아요/키웠나 봐요), 둘이. (J4)
(それでもらって育てたようです。二人)

3.2.5.3 連体形語尾+버릇하다

「～し慣れている」という意味を表す際、通常は「第Ⅲ語基+버릇하다」という形だが、J2は連体形語尾に버릇하다を接続させていた。また、버릇하다の後に놓다を接続させていた。

- (1) 한국 음식이 더…러시아도요, 러시아人, 이렇게 러시아 사람들도 한국 음식 먹는 버릇해(→먹어 버릇해) 노니까요, 김치 없이 몬 있어요. (J2)
(韓国料理がもっと…ロシアもですね、ロシア人、こうやってロシア人たちも韓国料理を食べ慣れたから、キムチなくしてはいられないです。)
- (2) 김치는 먹는 버릇해(→먹어 버릇해) 노문요. (J2)
(キムチは食べ慣れたたらですね。)

3.3 語彙

語彙は方言形であっても複数の地域で使用されているものが多く、どの方言の語彙かを断定することが難しいため、以下に品詞ごとに出現した形、標準形、使用地域の順で示す。なお使用地域は 국립국어원 우리말샘を参考にした。また、平壤文化語、方言かどうか不明なもの、古語は別にして最後に示した。

3.3.1 朝鮮語の諸方言

3.3.1.1 名詞

그기 (→거기) 全羅道

- (1) 실고 간다고 그기서(→거기서) 석탄 무너져 가지고.(J4)
(載せて行くなって、そこで石炭が崩れて。)

누야 (→누나) 慶尙道、中部

- (1) 누야 (→누나) , 누야 (→누나) , 내…누야 (→누나) っ て 呼 ぶ か ら 무슨 누야 (→누나) ? っ て。(J4)
(お姉ちゃん、お姉ちゃん、私…お姉ちゃんって呼ぶから何のお姉ちゃん? っ て。)

버버리(→병어리) 慶尙道、全羅道、中部、濟州道、平安道、咸鏡道

- (1) XXXX²⁰ 아주머니가 말 못해 가지고 버버린가(→병어리인가) 했는데 えーと、조선말 배우니까 참 짓글한다고 (웃음). (J3)

²⁰聞き取れなかった箇所はその拍数に合わせXで表した。

(XXXX おばさんが喋れなくて口がきけない子なのかと思ったけど、えーと、朝鮮語を習ったら本当にべちゃくちゃ喋るって (笑い。)

- (2) どしてかったら그 집 식구에서 제일 막내가 버버리(→빙어리).(J4)
(どうしてかと言うと、その家の家族で一番下の子が口のきけない子。)

배차(→배추) 慶尚道、全羅道、中部

- (1) 배차(→배추) 사 가지고 만들은 게 싸지요.(J2)
(白菜を買って作ったのが安いでしょう。)

사오(→사위) 慶尚道、全羅道、中部

사우(→사위) 慶尚道、全羅道、中部

- (1) 우리 사오는(→사위는) 어머니는 한국에서 살고 있어요, 한국.(J1)
(うちの婿はお母さんが韓国で暮らしています、韓国。)
- (2) 사우는(→사위는) 안 가고.(J3)
(婿は行かずに。)

시리떡(→시루떡) 慶尚道、全羅道、中部、濟州、咸鏡、中国朝鮮語

- (1) 今日日本食に慣れてるのであんまりこう韓国の、묵고 시다 하는 거 말했자면은 시리떡(→시루떡).(J3)
(今日日本食に慣れてるのであんまりこう韓国の、食べたいと思うもの言うとしたら蒸餅。)

아아(→아이) 慶尚道

- (1) 아아(→아이) 셋…있고 그 다음에 아들이가 уже 어른 돼 가지고 장개 갔고.(J4)
(子ども 3…いて、その次に息子がもう大人になって結婚して。)

어데(→어디) 慶尚道、中部、平安道、中国朝鮮語

- (1) 선생님 어데서(→어디서) 왔는가 모르지만 러시아서 살고 있었어요.(J1)
(先生どこから来たのか知らないけど、ロシアで暮らしていました。)
- (2) 어데(→어디) 가도 김치 생각 난다 하요.(J2)
(どこ行ってもキムチのことを思い出そうです。)

- (3) そこの,어테(→어디) 고향 상관없이 조선사람들 살았는데 …뫼밭. (J3)
 (そこの、どこの故郷か関係なく朝鮮人たちが暮らしていたんだけど…畑。)

올게(→올해) 全羅道、中部

- (1) 그래도 올게는(→올해는) 많이 팔았어요, 가을에.(J2)
 (それでも 今年はたくさん売りました、秋に。)

인자(→이제) 慶尚道、全羅道

이자(→이제) 慶尚道、全羅道

- (1) 인자(→이제) 조선학교에서 배운 거 옛날이라서 뭘 배웠는가 그래도 그르는
 읽지요.(J2)
 (もう朝鮮学校で習ったの昔だから、何を習ったのか、それでも文字は読むでしょう。)
- (2) 한국 사람들이 이자(→이제) 한국에서 왔지요?(J2)
 (韓国人たちがもう韓国から来たでしょう?)
- (3) 그게 보통마르는 알아듣지만 바쁜 마르는 다 잊어버렸어요 인자(→이제).(J2)
 (それが普通の言葉は聞き取れるけど、難しい言葉は全部忘れました、もう。)

3.3.1.2 形容詞

뜨시다(→따뜻하다) 慶尚道、中部

- (1) 나이 먹으므 거기 가서 살아요 뜨신 데(→따뜻한 데) 가서.(J2)
 (年とったらそこに行って暮らします、暖かいところ行って。)

3.3.1.3 動詞

댕기다(→다니다) 慶尚道、全羅道、平安道、咸鏡道、黄海道

- (1) 일본 사람들도 김치 먹는 버릇해 노니까 그냥 김치 안 먹는다 안 먹는다 하지만
 그냥 일하러 댕기고(→다니고) 냄새 나니까 저녁으로는 (略) (J2)
 (日本人たちもキムチ食べ慣れたからただキムチ食べない食べないって言うけど、た
 だ働きに行って匂いがするから夕食には (略))
- (2) 학교는 댕겼지만은(→다녔지만은) 구차게 살고 한 동네는 안 살았거든요. (J4)
 (学校は通ったけど、貧しい暮らしだったし一つの町に住まなかったんです。)

묵다(→먹다) 慶尚道、全羅道、中部

- (1) 今日本食に慣れてるのであんまりこう韓国の、묵고(→먹고) 싫다 하는 거 말했자면
은 시리떡.(J3)
(今日本食に慣れてるのであんまりこう韓国の、食べたいと思うもの言うとしたら蒸
餅。)

빠리다(→버리다) 慶尚道、全羅道／빨다(→버리다) 慶尚道／뿌다(→버리다) 慶尚道
버다(→버리다) 不明／빠리다(→버리다) 不明

- (1) 안 잊어벗어(→잊어버렸어). (J1)
(忘れてません。)
- (2) 맨날 배우다 또 잊어빠려(→잊어버려). (J2)
(毎日習ってまた忘れる。)
- (3) 따르만 가니까, 배 떠나가 빠렸어요(→떠나가 버렸어요). (J3)
(娘だけ行くから、船が出てしまいました。)
- (4) 갖고 오니까 自分を 내빨어 간(→내버려 간) 어머니한테 선물, 싫다 하면서 선물
전해는 사람 앞에서 마당에 확 던졌어요.(J3)
(持って来たから自分を捨てて行ったお母さんからプレゼント、嫌だって言いながら
プレゼント渡す人の前で庭にパッと投げたそうです。)
- (5) 몇 년 지나간 사람들 찾고 어머니 내뿌리고(→내버리고) 간 사람들이 자식들
어떻게 돼 가지고 찾을 수 있고.(J4)
(何年も通り過ぎる人を探して、お母さん、捨てて行った人たちが子どもたちをどうに
かして探すことができます。)

慶尚道方言では「第Ⅲ語基+버리다」が「第Ⅲ語基+빠리다」あるいは「第Ⅲ語基+뿌리다」にな
る(趙 2007)が、J1は「第Ⅲ語基+버다」という形を使い、J2とJ3の発話では「第Ⅲ語基+빠리
다」になっている。J3は「第Ⅲ語基+빨다」という形も使用していた。J4は慶尚道方言の「第Ⅲ語基
+뿌리다」を使っていた。

3.3.2 平壤文化語

동무(→친구²¹)

- (1) 동무들이(→친구들이) 다 조선말 하고.(J1)
(友達たちがみんな朝鮮語話して。)
- (2) 밖에 나가든 조선 사람도 많응께 조선 동무(→친구)끼리...(J2)

21 括弧内に示すのは韓国で対応する語である。

(外に出たら朝鮮人も多いから朝鮮の友達同士…)

- (3) 私と付き合うよになって、내하고 친해져 가지고 많이 배웠다고 자랑해요, 동무들한테(→친구들한테).(J3)

(私と付き合うよになって、私と親しくなってたくさん学んだって自慢します、友達たちに。)

발족(→족발)

- (1) 반쪽발이었던今돼지의발족(→족발)…그렇지 않으므 母さんが日本人。(J4)
(반치ョప్ప리 (蔑称) って言った今豚の足…そうでなかったら母さんが日本人。)

바쁘다(→어렵다)

- (1) 그게 보통 마르는 알아듣지만 바쁜(→어려운) 마르는 다 잊어버렸어요 인자.(J2)
(それが普通の言葉は聞き取れるけど、難しい言葉は全部忘れました、もう。)

일없다(→괜찮다)

- (1) 일없어요(→괜찮아요).(J2)
(大丈夫です。)

배워주다(→가르쳐 주다)

- (1) 우리 공부할 때는 학교에서 글 배워줬어요(→가르쳐 줬어요).(J3)
(私たちが勉強する時は学校で言葉を教えてくれました。)

자비로(→스스로)

- (1) 시리떡 우리 사하린에서 자비로(→스스로) 만들어서 먹었어요.(J3)
(蒸餅を私たちサハリンで自分で作って食べました。)

3.3.3 古語

짓글히다(→지절이다)

- (1) XXXX 아주머니가 말 못해 가지고 버버린가 했는데 えーと、조선말 배우니까 참 짓글힌다고(→지절인다고)(웃음).(J3)

(XXXX おばさんが喋れなくて口がきけない子なのかと思ったけど、えーと、朝鮮語を習ったら本当にべちゃくちゃ喋るって (笑い。)

3.3.4 不明

내(→나)

- (1) 내(→나)하고 둘이서. (J1)
(私とふたりで。)
- (2) 내(→나)도 공일날이라꼬 말 마이 안 하요. (J2)
(私も日曜日だってあまり言わないです。)
- (3) 널(→날) 죽어라고 내 빠리고 갔는데 だから 어머니가 없었으니까 아이들도 어머니 아버지 없으므 고상이잖아요. (J3)
(私を、死ねと、私捨てて行ったのに、だからお母さんがいなかったから、子どもたちもお母さんお父さんいないと苦労じゃないですか。)
- (4) 그 담에 그 오빠さん来て、내(→나)보고 ○○(人名) 어찌겠는가 이렇게 △△(人名)도 알게 됐다고.(J4)
(その次にそのお빠さん来て、私に○○どうするのか、こうやって△△も知るようになってって。)

구차다(→구차하다)

- (1) 학교는 땡갠지만은 구차게(→구차하게) 살고 한 동네는 안 살았거든요.(J4)
(学校は通ったけど、貧しい暮らしだったし一つの町に住まなかったんです。)

잡사다(→잡수다)

- (1) борщ 뱅에다 여 낫은 게 집에 갖다 잡사요(→잡취요).(J2)
(ボルシチの瓶に入れて置いたものが家に持って行って食べてください。)

J2 は잡수다という形も使用していた。

3.3.5 特徴的な表現

조선글, 러시아글(→조선말, 러시아말)

- (1) 글 쓰는 것도 조선글(→조선말) 다 썼어요. (J1)
(文字を書くのも朝鮮語を全部書きました。)
- (2) 러시아글은(→러시아말은) 누가 말 하면 이렇게 알아듣고. (J1)
(ロシア語は誰が言ってもこうやって聞き取って。)

- (3) 조선글(→조선말) 공부할 때는 조선先生だし 러시아글(→러시아말) 할 때는 러시아 사람이 러시아先生が.(J2)

(朝鮮語を勉強する時は朝鮮の先生だし、ロシア語をする時はロシアの先生がロシア先生が。)

- (4) 우리 공부할 때는 학교에서 글(→외국어) 배웠어요.(J3)

(私たちが勉強する時は学校で言葉を教えてくれました。)

以上のように、本来「文字」や「文章」を指す「글」を、「○○語」という意味で使う。

학교(가) 끝나다, 공부(가) 끝나다(→학교를 졸업하다, 공부를 마치다)

- (1) 남편도 자기 동생들みんな소련학교 공부 끝났죠(→졸업했죠). (J1)

(夫も自分の弟たちもみんなソ連の学校を卒業しました。)

- (2)みんな대학 끝났어요(→졸업했어요). (J1)

(みんな大学卒業しました。)

- (3) 칠학년 끝났으니까(→졸업했으니까/마쳤으니까)ね. (J2)

(7年生卒業したからね。)

ロシア語では「終わる」という意味の окончить を「卒業する」という意味でも使うため、朝鮮語でも「끝나다 (終わる)」を「卒業する」と同義で使っている。

한가지(→같다)

- (1) 그때 시대는 뭐 정말로 월급이 얼마나 선생 월급이 적었는지 보통 뭐라요, 掃除婦의 한가지였었어요(→같았어요). (J2)

(その時の時代は本当に月給がどれほど先生の月給が少なかったことか、普通なんて言いますか、掃除婦の(給料と)同じでした。)

「同じだ」と言う時、한가지という語彙を使う。韓国で一般的に使われる같다はほぼ使われない。

큰땅 사람(→고려인)

- (1) 큰땅 사람들은(→고려인들은) 있죠. (J2)

(高麗人たちはですね。)

高麗人のことをこう呼ぶ。큰땅とは大陸側のロシア、中央アジアを指す。

북선, 남선(→북한/북조선, 남한/남조선)

- (1) Узбекистан, Ташкент 거기도 북선(→북한/북조선) 사람들 많아요. (J2)

(ウズベキスタン、タシュケント、そこにも北朝鮮の人たち多いです。)

(2) 이 사람은 남선(→남한/남조선) 사람. (J2)

(この人は韓国人。)

日韓併合後に日本で使われだした言葉で、戦後は北朝鮮と韓国をそれぞれ指す言葉として使用された(内海ほか 1975)「北鮮」「南鮮」という単語の翻訳だと思われる。

교리 형제, 형제간, 종가(→의리 친척, 의리 친척 관계などが適切か)

(1) 교리 형제(→의리 친척 관계) 맺어 가지고 울산 사람, えーと 부산 사람, 제주도 사람, 교리 형제 맺어 가지고みんな. (J3)

(義理兄弟を結んで蔚山の人、えーと釜山の人、濟州島の人、義理兄弟結んでみんな。)

(2) 왜가 하문 母さんは 형제간들이(→의리 친척들이) 많았어요.(J4)

(なぜかというと母さんは義理兄弟 (疑似親戚)が多かったです。)

(3) 종가도(→의리 친척도) 많았어요.(J4)

(疑似親戚も多かったです。)

サハリンでは1世たちが出身地が同じ者同士、もしくは職場や居住地で親しくなった者同士で疑似親戚関係を結び、その関係にある人たちのことをこう呼んだらしい。冠婚葬祭は疑似親戚の者たちが集まり、朝鮮式に執り行ったという²²。

3.3.1 日本語

コンサルタントたちは朝鮮語を話している際にも日本語やロシア語へのコード・スイッチングが頻繁に起こるため、日本語やロシア語の語彙も多数出てくるが、この項では朝鮮語での発話で現れた日本語の語彙の例を品詞ごとに示す。

3.3.1.1 名詞

(1) 그러니까 내한테는 戶籍謄本 다 있응께 일본에 올 수 있죠.(J1)

(だから私に戶籍謄本全部あるから日本に来ることができるでしょう。)

(2) 김치다가 鯿 같은 거 썰어 가지고.(J1)

(キムチに鯿みたいなものを切って。)

(3) 이자는 뭐 자기들로 꺾어서 말려 가지고 먹고 蕎도 그냥 먹지요.(J2)

²² 동생간(後舌化して동상간と発音される場合もある)と呼ぶこともある。サハリンで放送されているサハリン朝鮮人のための番組「УРИМАЛ БАНСОН (ウリマル放送)」でもよく耳にする語彙である。

(もう自分たちでとって干して食べて、蕎もそのまま食べます。)

- (4) 거기서 新聞도 했었어요.(J2)

(そこで新聞もやっていました。)

- (5) 그 안에 한국 사람들이야 일본 집에, 일본 사람 えーと, 엄마가 일본 사람이라고 密告하잖아요.(J3)

(その中に韓国人たちや日本の家に、日本人、えーと、お母さんが日本人だって密告するじゃないですか。)

3.3.1.2 間投詞

- (1) あの-칠학년, 칠, 칠년.(J2)

(あの-7年生、7, 7年。)

- (2) 한국말 하지, 러시아말 하지, 영어말 하지, 日本말도 えーと, 일본 사람, 부럽다 하고 일본말 잘하니까.(J3)

(韓国語喋るでしょ、ロシア語喋るでしょ、英語喋るでしょ、日本語もえーと、日本人、羨ましいと言って、日本語上手だから。)

以上のように、現れた日本語はほぼ名詞と間投詞だった。3.2.4.3 で述べたように、在日朝鮮語で見られる朝鮮語と日本語を混ぜた動詞の使用は本調査では見られなかった。

3.3.2 ロシア語

この項では朝鮮語での発話に現れたロシア語の語彙の例を品詞ごとに示す。

3.3.2.1 名詞

- (1) 그래 병원에 가서 약 받아 가지고 따르는 давление, давление. 난て…血圧.(J1)

(そう病院に行って薬をもらって娘は血圧、血圧、なんて…血圧。)

- (2) третье 세번째, 시동생도 대학 끝났고.(J1)

(三番目、三番目、夫の弟も大学を卒業して。)

- (3) 왜냐하면 интернет 보든 비츠가 그렇게 몸에 좋다고 많이 나오요.

(なぜならインターネット見たら비츠がそれほど体にいいとたくさん出てきます。)

3.3.2.2 副詞

- (1) 여결…совсем 이사 왔으니까 병원에 진찰해야 되는…(J1)

(ここを…完全に引っ越して来たから病院に診察しなければならない…)

- (2) 아아 셈…있고 그 다음에 아들이가 уже 어른 돼 가지고 장개 갔고.(J4)
(子ども 3…いて、その次に息子がもう大人になって結婚して。)

3.3.2.3 接続詞

- (1) 아, 학교 갈 때 학교 갈 때 조선말 потому что 아버지는 조선말로 말했죠.(J1)
(あ、学校行くとき、学校行くとき朝鮮語、なぜならお父さんは朝鮮語で喋ったでしょう。)

3.3.2.4 間投詞

- (1) это, 동생, 여동생 둘이.(J1)
(えーと、弟、妹ふたり。)
- (2) 러시아語, это, わからない, 한국말도 써야 늘어나는데 안 쓰니까 잊어버린 거 많아요.(J3)
(ロシア語、えーと、わからない、韓国語も使ってこそ伸びるけど使わないから忘れたものが多いです。)
- (3)ほんとに 공부 다른… 산수 같은 거는 это_____なんていうか、잘했는데
なんていうかあの…한국의 조선 국어 가지고 뭐 아이가오…(J4)
(ほんとに勉強他の…算数みたいなものはえーとなんていうか、得意だったけどなん
ていうかあの…韓国の朝鮮の国語で何)

朝鮮語での発話にロシア語の名詞が混ざる場合、朝鮮語の当該語彙が思い出せないときにまずロシア語を使い、その後朝鮮語で言い直す例が確認できた。Ramsey(1993)では、科学技術や現代的な語彙はロシア語を使うとされているが、本調査では科学技術や現代的な語彙で確認できたのは 인터넷 (インターネット) だけであった。인터넷 の場合は朝鮮語で言い直すこともなく、おそらく 인터넷 に当たる朝鮮語の語彙は知らなかったのだと思われる。間投詞の это は J2 以外の全員が頻繁に使っていた。это は日本語の「えーと」と発音も似ており、使い方も似ていることから、口にしやすいのかもしれない。

3.4 日本語の影響と見られるもの

この項では、コンサルタントたちの発話のうち、日本語からの転移と見られる表現をいくつか挙げる。

3.4.1 말이 더럽다

- (1) 말이 좀 더럽서요(→더러워요). 어머니말. (J1)

(言葉がちょっと汚いです。お母さんの言葉。)

これは J1 の姑が自身の青森弁が訛っていて「汚い」と言って喋りたがらなかったという文脈で出てきた表現である。日本では標準語教育(共通語教育)の結果、方言は「汚い」というイメージが定着し(ナショナルジオグラフィック HP)、方言を話すことやその訛りを「汚い」と表現することがあるが、朝鮮語の「더럽다(汚い)」にはそのような意味はなく、もし朝鮮語で「訛っている」を表すとしたら「사투리를 쓰다」「억양이 나오다」ほどになる。

3.4.2 작다

- (1) で、そこ行って私農業で작을 때부터(→어릴 때부터) 농촌에 살았으니까 풀 베는 것도 잘했어요. (J3)

(で、そこ行って私農業で小さい時から農村に住んでたから草刈りも上手でした。)

「幼い時」を日本語では「小さい時」と表すことができるが、朝鮮語の「작다(小さい)」には「幼い」という意味はなく、「幼い時」「小さい時」を表す場合は「어리다」を用いる。上記の例は日本語の「小さい時」を「작다」を用いて朝鮮語に直訳したものと思われる。

3.4.2 누이

- (1) 누이가(→언니가) 살았어요. (J4)

(お姉さんが暮らしました。)

これは筆者が J4 になぜ J4 の母親は樺太に渡ったのかと質問した場面で、母のお姉さんが先に樺太で暮らしていたため、お姉さんを頼って母も樺太に渡ったと語った際の発話である。「누이」は男性から見た姉、もしくは妹を指す言葉であり、妹の立場から見た「姉」に対しては使えない。日本語の「姉」は妹・弟どちらの立場でも使えるため、混同したのだと思われる²³。J4 には兄と姉がいるが、兄と姉のことは名前で呼んでおり、朝鮮語の親族名称には不慣れなことも混同の要因として考えられる。

4. まとめ

以上見てきたように、音韻、語法、語彙のすべての面で慶尚道方言の特徴が目立った。全羅道出身の養父を持ち、幼少期に家庭で朝鮮語を使っていたという J1 も全羅道方言の特徴はほぼ現れず、慶尚道方言の特徴が確認された。これは樺太の朝鮮コミュニティでは慶尚道方言が優勢で、その他の方

²³ ロシア語の「сестра」も妹・弟どちらの立場からも「姉」を指すことができる。

言形が消失していった可能性を示唆している。また家庭内言語（たとえば J1 の全羅道方言）や学校内言語（高麗語や平壤文化語）よりも、社会で使用する言語（慶尚道方言）の方が個人の言語使用に強い影響を及ぼし、社会における使用頻度や接触の多さが、個人の言語形成に影響を与え得ると言えるかもしれない。特に樺太時代から現在のサハリンにおいて常にマイノリティである朝鮮人たちは、語彙の項で述べた「고리 형제」「형제간」と呼ばれる擬似親戚関係を結び、社会的な繋がりを大事にしていたことから、社会での使用言語が個人の言語使用に特に強く影響を与えたとも言える。

また、日本語の影響と思われる特徴も音韻、語法、語彙のすべての面で見られた。先行研究（金美貞 2008、真田 2009、真田・金 2014）でサハリンの日本語に朝鮮語が影響を及ぼしていることが明らかになっているように、サハリン朝鮮語にも日本語が影響を及ぼしている。本調査のコンサルタントたちは J1 を除く 3 人が朝鮮学校入学時に朝鮮語を学び始めており、母語である日本語の影響が現れただけとも考えられるが、今後韓国のコンサルタントたち（サハリンからの永住帰国者たち）の話す朝鮮語にはどのような日本語の影響が現れるかを分析し、比較することとしたい。

謝辞

本調査にご協力くださったコンサルタントの 4 人とそのご家族、コンサルタントを紹介してくださった日本サハリン協会の斎藤弘美会長、執筆にあたって貴重なご意見をくださった指導教員の高民定先生、神田外語大学の浜之上幸先生に心より感謝を申し上げます。

引用文献

（日本語）

- 李翊燮・李相億・蔡琬著、梅田博之監修、前田真彦訳（2015）『韓国語概説』大修館書店
- 印省熙・山田佳子・宋美玲・白寅英（2023）『韓国語誤用防止のための手引き：作文の誤用データに基づく指導案とドリル』私家版
- 宇佐美まゆみ・李恩美・鄭榮美・金銀美（2007）「基本的な文字化の原則（Basic Transcription System for Japanese: BTSJ）の韓国語への応用について」『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』
- 内海愛子・梶村秀樹（1975）「『北鮮』『南鮮』ということば」『朝鮮研究』150、pp.4-22.
- 大沼保昭(1992)『サハリン棄民：戦後責任の点景』中公新書
- 小倉進平（1944）『朝鮮語方言の研究』上下巻、岩波書店
- 樺太庁（1943）『昭和十七年樺太要覧』樺太庁
- 菅野裕臣（1981）『朝鮮語の入門』白水社
- 金東昭（2003）『韓国語変遷史』明石書店

- 金炫勇 (2018) 「韓国語における初声 H (ㅎ) 発音に関する一考察」『広島修大論集』59 (1)、pp.15-31.
- 金美貞 (2008) 「日本語と朝鮮語の接触について：サハリン朝鮮人 2 世の事例」『日本語学研究』第 23 号、pp.15-29.
- 金由美 (2005) 「残存韓国語語彙の様相：ある在日 2・3 世の場合」『在日コリアンの言語相』pp.117-140.
- 玄武岩、パイチャゼ・スヴェトラナ (2016) 『サハリン残留：日韓口百年にわたる家族の物語』高文研
- 權恩熙 (2021) 『ディアスポラ方言としての在日コリアンの朝鮮語に関する社会言語学的研究：朝鮮学校コミュニティを中心に』名古屋大学博士論文
- 權在一 (2018) 「中央アジア高麗語の話しことばと書きことば」『韓国語教育論集』第 3 卷、pp.287-318.
- 真田信治 (2009) 「樺太での戦後：残留コリアン H さんの事例」『越境した日本語：話者の「語り」から』pp.82-97.
- 真田信治・金美貞 (2014) 「サハリン日本語における朝鮮語の干渉：残留コリアン F さんの談話から」『北海道方言研究会叢書』第 6 号、pp.144-151.
- 高木丈也 (2019) 『中国朝鮮族の言語使用と意識』くろしお出版
- 趙義成 (2007) 「慶尚道方言とソウル方言」『韓国語教育論講座』第 1 卷、pp.203-219.
- 鄭惠先 (2005) 「日本語と韓国語の複数形接尾辞の使用範囲：文学作品と意識調査の分析結果から」『日本語科学』17、pp.317-343.
- 中山大將(2012) 「韓国永住サハリン朝鮮人—韓国安山市「故郷の村」の韓人」『北東アジアのコリアン・ディアスポラ：サハリン・樺太を中心に』pp.208-295.
- 中山大將(2018) 『亜寒帯植民地樺太の移民社会形成：周縁的ナショナル・アイデンティティと植民地イデオロギー』京都大学学術出版会
- 朴亨柱 (1991) 『サハリンからのレポート：棄てられた朝鮮人の歴史と証言』御茶の水書房
- hana 編集部 (2022) 『韓国語学習ジャーナル hana vol.43』
- 宮下尚子 (2007) 『言語接触と中国朝鮮語の成立』九州大学出版会
- 吉田さち・松本和子 (2022) 「在外コリアンの音節核のヴァリエーション：在日・在サハリンの対象社会言語学的考察」『跡見学園女子大学文学部紀要』第 57 号、pp.209-232.
- ロング・ダニエル (2013) 「言語接触と言語混交」『多言語社会日本：その現状と課題』三元社、pp.133-145.
- ワインライヒ (1976) 『言語間の接触：その事態と問題点』岩波書店
- 渡邊香織 (2018) 「ドキュメンタリー映画から見る在日朝鮮語の特徴」『千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書』327、pp.42-57.

(朝鮮語)

- 국어사정위원회 (2010) 『조선말 규범집』 사회과학원출판사
- 김영순·박봉수·이영실·박미숙 (2018) 『사할린 한인의 노스텔지어 이야기 탐구』 북코리아
- 맹복실 (2014) 「조선대학교 도교출신 학생들의 조선어에서 나타나는 종결형의 체계에 대한 연구: 알림식, 물음식의 체계를 기술하기 위한 기초적인 논의」 『조선대학교학보』 24, pp.205-236.
- 이재호 (2016) 「일본의 조선학교 학생들에 의한 한국어 종결어미 사용」 『사회언어학』 Vol.24, No.3, pp.183-206.
- 이화진·하호빈 (2021) 「일본인 학습자의 한국어 발음 오류에 대한 종적 연구: 자연 발화 데이터 분석을 중심으로」 『국어교육학연구』 Vol.56, No.2, pp.183-206.
- 임엘비라 (2010) 「사할린 한인들의 정체성: 우리말 교육의 현황과 과제」 『다문화교육연구』 제 3 권, 제 1 호, pp.105-124.
- 한국방언학회 (1985) 『국어방언학』 형설출판사
- 최명옥 (2019) 『한국어의 방언』 세창출판사
- 최정숙 (2003) 『학교 문법에서 ‘해요체’의 ‘요’ 특성 연구』 세종대학교 교육대학원 석사논문
- 최현배 (1985) 『우리말본』 정음문화사

(英語)

- Fajst&Matsumoto(2020) 「Japanese and Korean Loanwords in a Far East Russian Variety: Human Mobility and Language Contact in Sakhalin」 『Asian and African languages and linguistics』 No.14, pp.155-195.
- S. Robert Ramsey (1993) 「A Preliminary Report of Sakhalin Korean」 『サハリンの少数民族(文部省科学研究補助金国際学術研究(共同研究)研究成果報告書)』
- (サイト)
- ナショナルジオグラフィック 「第2回 方言は汚い言葉？」 <https://natgeo.nikkeibp.co.jp/nng/article/20120629/314320/?P=1> (最終閲覧日 2024/12/1)
- 국립국어원 우리말샘 <https://opendict.korean.go.kr/main> (最終閲覧日 2024/12/1)
- 국립국어원 표준 발음법 https://www.korean.go.kr/front/page/pageView.do?page_id=P000097 (最終閲覧日 2024/12/1)
- 나무위키 동남방언 <https://namu.wiki/w/동남%20방언/문법#s-6.2> (最終閲覧日 2024/12/1)
- 한국학중앙연구원 한국민족문화대백과사전 <https://encykorea.aks.ac.kr/Article/E0026095> (最終閲覧日 2024/12/1)

(わたなべ かおり・千葉大学人文公共学府博士後期課程)

Characteristics of Sakhalin Korean in the Utterance of the Remaining Japanese in Sakhalin

Kaori WATANABE

Sakhalin Korean exhibits a prominent influence from the Gyeongsang dialect in its phonology, grammar, and vocabulary. For instance, even in the case of J1, who grew up with a foster father from Jeolla Province and spoke Korean at home during childhood, features of the Jeolla dialect are scarcely evident, while characteristics of the Gyeongsang dialect predominate. This suggests that the Gyeongsang dialect became dominant within the Sakhalin Korean community, potentially leading to the gradual disappearance of other dialect forms. Moreover, the influence of socially used dialects appears stronger than that of those used in private or educational settings, indicating that social interactions have a significant impact on individual language use. This effect is likely reinforced by the Korean community's emphasis on social cohesion, as a minority group, and their focus on maintaining social ties.

Additionally, Japanese influence on Sakhalin Korean is evident in phonology, grammar, and vocabulary. This influence aligns with prior research indicating that Korean has impacted Japanese in Sakhalin, suggesting a reciprocal linguistic influence. Future research will focus on analyzing the Korean spoken by Sakhalin returnees now residing in Korea and comparing it with the Korean of remaining Japanese in Sakhalin.